

夏休み

水辺の事故を防ぐために

夏休みは子供たちにとって楽しい時期ですが、水辺の事故に気を付けなければならない時期でもあります。

昨年夏期における子供の水辺の事故の主な発生場所の1位は「河川（50%）」、2位は「海（28.6%）」となっており、行為別の事故発生の1位は、「水遊び（50%）」で、次いで「魚とり・釣り（28.6%）」となっています。水辺の事故は毎年1400件を超え、特に夏休み期間となる7月～8月は多く発生しています。



しかしながら、水辺の活動は、自然環境への興味関心が高まり、五感を強く刺激することによるリフレッシュ効果もあるなど高い教育効果があることも分かっています。

“危険だから”と水辺から遠ざけるのではなく、子供たち自身が「自分の命は自分で守る」意識と技能を身につけ、様々な活動を通じて「生きる力」を伸ばしていくことも大切な経験といえます。

安全に水辺の活動を楽しむために…

- 水辺に遊びに行く前に「天気予報を確認」
- 水辺で遊ぶときは「ライフジャケットを着用」
- 水辺で遊ぶときは「一人で行かずグループで」
- 溺れている人を見つけたら「飛び込まず助けを呼ぶ」
- 水に落ちてしまったら「あわてず、浮いて助けを待つ」

各家庭でルールを決め、安全に水辺の活動を楽しむように心がけてください。

蒲刈 B&G 海洋センターでは、夏のシーカヤック体験教室・SUP体験教室の体験時に安全に水辺で遊ぶことができるよう、浮き身の練習やライフジャケット体験などを行う「水辺の安全教室」を実施しています。

